岩手・宮城内陸地震 発生から1年
～東北地方整備局における災害への対応状況について～

平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震により15名の方が亡くなられ、15箇所の大規模河道閉塞（天然ダム）が形成されるなど地域に大きな被害をもたらし、1年を経た現在も災害復旧対策が続いています。

東北地方整備局では、地震発生直後から直轄砂防業務関連緊急事業により河道閉塞（天然ダム）箇所の応急対策や監視・観測体制を整備・継続してきましたが、これまでのところ二次災害や土砂崩落等の大きな変状は確認されておりません。

この度、地震発生から1年を迎えるにあたり、東北地方整備局において取り組んでいる、「岩手・宮城内陸地震の経験を活かした防災対応強化の取り組み（H20.10.15記者発表を踏まえた検討及び実施の状況）」及び「河道閉塞（天然ダム）対策状況や警戒避難等に資する監視態勢等」について報告します。

※本記者発表の内容について、本日15時より整備局第一会議室で会見を行うこととしています。

[防災対応強化の取り組み] 資料－1
1. TEC-FORCE研修の実施
2. 無人化施工機械等の導入
3. 活動拠点マップの作成
4. リエゾン制度の周知、協定の締結

[河道閉塞（天然ダム）対策状況等] 資料－2
1. 河道閉塞（天然ダム）対策の進捗について
2. 警戒避難に資する監視態勢について
3. 地元及び報道機関への情報提供等について
4. 栄養物の固定緊急砂防事業の進捗について

※震災復旧報告会（仮称）等の開催について
7月10日、国土交通省や県・市の1年間の取組状況や今後の復旧について報告会を開催します。詳細は後日記者発表いたします。
また、6月14日一関市において今後の防災対策について考える「市民防災フォーラム」（別添チラシ）を開催します。

（発表記者会）
岩手県政記者クラブ、宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会、古川記者クラブ

（問い合わせ先）
[防災対応強化の取り組み] 企画部 防災対策課 木村 信悦（内3125）
防災課長 熊谷 俊子（内3411）

[河道閉塞（天然ダム）対策状況等] 河川部 河川計画課長 小内 謙宏（内3611）
建設専門官 小竹 利明（内3616）

住所 仙台市青葉区二日町9－15
電話 022－225－2171（昼間）
【防災対応強化の取り組み】
現在、東北地方整備局では、岩手・宮城内陸地震及び岩手北部地震時の活動経験・知見を活かし、防災対応の強化に取り組んでいます。

《取り組み1》TEC-FORCE研修の実施

■ TEC-FORCE活動のレベルアップを図るために、H21年度にTEC-FORCE隊員等（県職員等を含む）を対象とした研修2回・セミナー3回の計5回を実施。災害対応技術の継承を図る。
■ TEC-FORCE隊 装備の充実→ 山間地における通信の確保として衛星携帯電話（小型）を導入

TEC-FORCE研修（1期）[5月27日：岩手県における現地実施状況] TEC-FORCEセミナー（後期）[4月15日：排水ポンプ車類配署]

《取り組み2》無人化施工機械（遠隔操縦式）等の導入

①遠隔操縦式バックホウの導入
有人施工が不可能な危険箇所の作業において遠隔バックホウが有効であることから
〇H21年度に遠隔操縦式バックホウ0.5m3級1台を岩手河川国道事務所に配備する予定。
　また、遠隔操縦式バックホウのオペレーターの育成・確保についても検討中。

②排水ポンプの充実
山間部における河道閉塞対応に軽量・高揚程型の排水ポンプが有効であることから
〇H21.3に空輸に対応可能な「軽量・高揚程型ポンプ車」1台を東北技術事務所へ導入。
〇H21年度にさらに「軽量・高揚程型ポンプ車」1台を秋田河川国道事務所に配備予定。

③空輸対応のバックホウ開発
山間部における河道閉塞対応にヘリによる重機輸送が有効であることから
〇空輸を想定した分解・組立型1.0m3級バックホウの開発についてH21年度から着手。
《取り組み3》活動拠点マップの作成

大規模災害に備え、自治体の施設も含めた活動拠点マップを作成

活動拠点マップ

岩手県内の拠点リスト（一部抜粋）

岩手県内

| 区分 | 県総合防災センター
| 城北市役所 | 岩手県盛岡市上戸4丁目49-1
| 市 | 岩手県一関市役所
| 市 | 岩手県一関市活用町2丁目155-61
| | 岩手県一関市

※電子図上に拠点施設を表示

《取り組み4》リゾン制度の周知、協定の締結

〇災害対策情報連絡員（リゾン）とは

・平成19年12月に創設
・被災者公共団体との災害支援窓口として、県等の災害対策本部に派遣することで、被災情報の収集や提供を行い、的確な災害対策支援の実施に寄与することを目的とする。
※リゾン（Liaison、「つなぐ」という意味のフランス語）

〇岩手・宮城内陸地震における活動内容

・被災のあった2県3市（岩手県庁、宮城県庁、一関市、奥州市、栗原市）に対して近隣事務所から1〜2名派遣・配置。
・各地の被害規模等を速やかに把握し、TEC-FORCE派遣の判断に携わるなど、有効に機能した。

■ 市町村に対して、リゾン制度の説明を実施し、調整窓口を開設済み
■ 宮城県栗原市、岩手県一関市及び青森県西目屋村とリゾン派遣に関する協定を締結済み。その他の市町村についても順次締結予定

岩手・宮城内陸地震におけるリゾン活動状況
1. 河道閉塞（天然ダム）対策の進捗について　・・・別紙1（P6～P15）

○直轄砂防要塞関連緊急事業

１５箇所の河道閉塞（天然ダム）のうち、直轄砂防要塞関連緊急事業により対策を実施している箇所は9箇所です。（岩手県側：市野々原地区、塩女川地区、宮城県側：浅布地区、小川原地区、温湯地区、湯ノ倉温泉地区、湯浜地区、沼倉地区、沼倉裏沢地区）

緊急対応として仮排水路、本復旧として除石工及び渓流保全工を実施しています。

・これまでの対応

緊急対応として岩手県（市野々原地区、塩女川地区）宮城県（浅布地区、小川原地区、沼倉）の5地区は仮排水路等の整備を平成20年8月上旬から10月下旬までに完成させています。また、宮城県（沼倉裏沢地区）では河道整正を実施し平成20年10月下旬に完成させています。

本復旧として、岩手県（塩女川地区）と宮城県（温湯地区）の2地区において除石工を平成20年10月下旬から11月下旬に完成させています。

・これからの予定

岩手県（市野々原地区）、宮城県（浅布地区、小川原地区、湯ノ倉温泉地区、湯浜地区、沼倉地区）の6地区について、本復旧の渓流保全工等に着手し平成21年1月の完成を予定しています。（現時点で湯浜地区は工事中）

2. 警戒避難に資する監視態勢について　・・・別紙2（P16～P19）

河道閉塞（天然ダム）監視のため、カメラ画像や水位計データ及び土石流センサー切断等の情報を県・市に提供することで警戒避難に資する監視態勢を構築しています。

異常出水や降雨の状況及び震度4以上の地震発生時等にヘリコプター監視を延べ4回実施しその結果を県・市に提供しています。これらのデータは東北地方整備局ホームページでも公表しています。

また、河道開発（天然ダム）の大規模侵食等の緊急事態対応の訓練として、県・市等関係機関同士の連携を図り避難訓練及び情報伝達訓練を計3回実施しました。

3. 地元及び報道機関への情報提供等について　・・・別紙3（P20）

工事の進捗状況等について地元説明会を開催し市・栗原市で延べ13回実施するとともに、報道機関を対象とした現地合同取材を開催し市・栗原市で延べ9回実施しました。

また、関係機関と合同で情報伝達・避難訓練を一関市・栗原市で延べ4回実施しました。

4. 栗駒山系特定緊急砂防事業の進捗について　・・・別紙4（P21）

15箇所の河道閉塞（天然ダム）のうち、平成21年度から新たに創設された特定緊急砂防事業により9箇所対策を実施します。（岩手県側：市野々原地区、檜木平地区、塩女川地区、宮城県側：小川原地区、温湯地区、湯ノ倉温泉地区、湯浜地区、沼倉地区、沼倉裏沢地区）

当面は、砂防施設整備のための調査測量及び設計等を実施し、今後約5箇年で砂防えん堤等の整備を実施する計画です。

※市民防災フォーラム ～岩手・宮城内陸地震から1年～ 別添チラシ（P22）
直轄砂防災害関連緊急事業の実施箇所位置図

岩手県宮城県知事からの要請をうけ、東北地方整備局では、ヘリコプター等による現地調査の結果に基づき15箇所の河道閉塞（天然ダム）を確認し、決壊により下流への氾濫のおそれが特に高い箇所の河道閉塞（天然ダム）について、直轄砂防災害関連緊急事業により、地域の安全・安心確保のための工事を実施しています。

赤：直轄砂防災害関連緊急事業実施箇所

<table>
<thead>
<tr>
<th>県名</th>
<th>地区</th>
<th>予算額（億円）</th>
<th>採択日</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>岩手県</td>
<td>市野々原</td>
<td>10.7</td>
<td>6月16日</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>産女川</td>
<td>4.6</td>
<td>6月21日</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>小計</td>
<td>15.3</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宮城県</td>
<td>浅布</td>
<td>4.7</td>
<td>6月16日</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>小川原</td>
<td>9.4</td>
<td>6月21日</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>温湯</td>
<td>5.2</td>
<td>6月21日</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>湯倉</td>
<td>8.0</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>湯ノ倉温泉</td>
<td>1.3</td>
<td>6月24日</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>湯ノ倉温泉（追加）</td>
<td>1.8</td>
<td>7月9日</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>湯沢</td>
<td>15.9</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>小計</td>
<td>46.4</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>合計</td>
<td></td>
<td>61.7</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

現在、15箇所の河道閉塞（天然ダム）のうち、直轄砂防災害関連緊急事業により7箇所で対策を実施中です。
直轄砂防災害関連緊急事業の実施状況

○市野々原地区（岩手県一関市）

河道閉室箇所における直轄砂防災害緊急事業 スケジュール

發災7日目に通水開始

地震発生から3日後の6月17日から河道閉室箇所の仮排水路整備に着手し、7日後に通水開始、8月15日に仮排水路を完成。

■ 損災直後の状況

■ 夜を徹した仮排水路掘削作業
仮排水路延長 約120m
発災7日目に通水開始
（開発箇所が板張であり作業が難航した）

■ 仮排水の拡幅（通水開始）

■ 現在の状況
直轄砂防災害関連緊急事業の実施状況

○産女川地区（岩手県一関市）

河川関係箇所における直轄砂防災害関連緊急事業 スケジュール

地震発生から11日後の6月25日から産女川地区下流の既設砂防えん堤の除石に着手し、11月27日に完了。

○浅布地区（宮城県栗原市）

河川関係箇所における直轄砂防災害関連緊急事業 スケジュール

地震発生から3日後の6月17日から河川関係箇所の仮排水路整備に着手し、8日後に通水開始、8月29日に仮排水路を完成。
地震発生から3日後の6月17日から河道閉塞箇所の仮排水路整備に着手し、6月27日には通水開始、8月29日に仮排水路を完成。
## 直轄砂防災害関連緊急事業の実施状況

### 温湯地区（宮城県栗原市）

<table>
<thead>
<tr>
<th>地区名</th>
<th>平成20年度</th>
<th>平成21年度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>6月1日 glazed</td>
<td>5月 spiked</td>
<td>5月 glazed</td>
</tr>
<tr>
<td>6月初期 glaze</td>
<td>5月初期 spike</td>
<td>5月初期 glazed</td>
</tr>
<tr>
<td>6月中期</td>
<td>5月中期</td>
<td>5月中期</td>
</tr>
<tr>
<td>6月後期</td>
<td>5月後期</td>
<td>5月後期</td>
</tr>
</tbody>
</table>

10/20除石完了

地震発生から13日後の6月27日から温湯地区下流の既設えん堤の除石工に着手し、10月20日に除石完了。

### 湯浜地区（宮城県栗原市）

<table>
<thead>
<tr>
<th>地区名</th>
<th>平成20年度</th>
<th>平成21年度</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>6月1日 glazed</td>
<td>5月 spiked</td>
<td>5月 glazed</td>
</tr>
<tr>
<td>6月初期 glaze</td>
<td>5月初期 spike</td>
<td>5月初期 glazed</td>
</tr>
<tr>
<td>6月中期</td>
<td>5月中期</td>
<td>5月中期</td>
</tr>
<tr>
<td>6月後期</td>
<td>5月後期</td>
<td>5月後期</td>
</tr>
</tbody>
</table>

9月29日から工事用道路に着手したが、地形が急峻であり地震の影響で地盤が弱くなっていることからルート選定に難航。
本復旧工事は4月16日に契約済み、現在昨年度に引き続き工事用道路施工中。

---

# 章節

- 除石作業
- 現在の状況
- 役員直後
地震発生から13日後に工事用道路及び仮排水路に着手、工事用道路造成に時間を要することから、ヘリコプターによる機材運搬を実施。
7月5日にポンプ排水開始、8月12日に排水管排水開始、11月20日に竣工完成。
直轄砂防災害関連緊急事業の実施状況

○湯ノ倉温泉地区の大規模侵食について

地震発生後、降雨により4回の越流を経験し、5回目の越流の際に大規模侵食が発生し下流へ土砂が流出しました。予め除石を行っていた下流のえん堤で土砂を捕捉。また、河道の安定化を図るために、帯工の整備を実施。

10/24の大規模侵食により流出した土砂は、除石を実施した既設砂防えん堤で補足。下流への土砂流出を防いだ。

■排水ポンプ設置と排水状況

■仮排水路流れ状況

■平成20年10月24日大規模侵食後の濁流

■応急対策として実施した帯工

帯工により河道安定を図る


直轄砂防災害関連緊急事業の実施状況

○沼倉地区（宮城県栗原市）

河道開塞箇所における直轄砂防災害関連緊急事業スケジュール

<table>
<thead>
<tr>
<th>地域名</th>
<th>6月</th>
<th>7月</th>
<th>8月</th>
<th>9月</th>
<th>10月</th>
<th>11月</th>
<th>12月</th>
<th>1月</th>
<th>2月</th>
<th>3月</th>
<th>4月</th>
<th>5月</th>
<th>6月</th>
<th>7月</th>
<th>8月</th>
<th>9月</th>
<th>10月</th>
<th>11月</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>6/12開塞箇所</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>1/28本復旧着手</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

7月1日から河道開塞箇所の倒木処理及び仮排水路整備に着手。9月30日に仮排水路完成。1月28日から本復旧に着手。

仮排水路掘削状況

現在の状況

河床治直の部品を絞り作業中

○沼倉裏沢地区（宮城県栗原市）

河道開塞箇所における直轄砂防災害関連緊急事業スケジュール

<table>
<thead>
<tr>
<th>地域名</th>
<th>6月</th>
<th>7月</th>
<th>8月</th>
<th>9月</th>
<th>10月</th>
<th>11月</th>
<th>12月</th>
<th>1月</th>
<th>2月</th>
<th>3月</th>
<th>4月</th>
<th>5月</th>
<th>6月</th>
<th>7月</th>
<th>8月</th>
<th>9月</th>
<th>10月</th>
<th>11月</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>6/12開塞箇所</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td>10/24河道整正完了</td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>

7月1日から河道開塞箇所の倒木処理及び河道整正に着手。10月24日に完了。

現在、監視継続中。

被災直後の状況

河道整正状況

現在の状況

河道整正箇に大きな変化はありません。
警戒避難に資する監視態勢について

河道閉塞（天然ダム）監視のため、カメラ画像や水位計データ及び土石流センサー切断等の情報を県・市に提供することで警戒避難に資する監視態勢を構築しています。

<table>
<thead>
<tr>
<th>地域名</th>
<th>監視機器</th>
<th>平成20年度</th>
<th>平成21年度</th>
<th>備考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>6月</td>
<td>7月</td>
<td>8月</td>
</tr>
<tr>
<td>岩手県</td>
<td>島井川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>土石流センサー（野S-1）</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>土石流センサー（野S-2）</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雨位計（雨-1）</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雨位計（雨-2）</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>監視カメラ（威S-1）</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>宮城県</td>
<td>泽渡川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>水位計</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>土石流センサー（沼S-1）</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>監視カメラ（沼S-1）</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>岩手県</td>
<td>五箇川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>土石流センサー（五箇S-1）</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>監視カメラ（五箇S-1）</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雨位計</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>福島県</td>
<td>淀池川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>土石流センサー</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>監視カメラ</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雨位計</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>福島県</td>
<td>淀ノ瀬温泉</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>監視カメラ</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>雨位計</td>
<td>設置</td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>岩手県</td>
<td>三流川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>沼倉川</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>土石流センサー</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
</tbody>
</table>
三進川、築井川上流において、東北地方整備局及び宮城県・岩手県が連携を図りながら、監視カメラ・土石流センサー・水位計等を設置し、宮城県栗原市、岩手県一関市の警戒避難のために情報提供を行っています。また、監視カメラや水位計の情報は東北地方整備局ホームページでも公開しています。
東北地方整備局では、大規模な河道閉塞（天然ダム）のヘリコプター監視を震度4以上の地震発生時や異常出水、降雨の状況等により、適宜実施しています。

ヘリコプターによる河道閉塞（天然ダム）の監視は、東北地方整備局配備のみちのく号ほか計4機により、発災後これまでに計44回実施しております。

監視結果（個票）は東北地方整備局HP「岩手・宮城内陸地変動情報」ページで閲覧できます。
地震発生後から、河道閉塞（天然ダム）の対策状況について、住民の方々への説明会の実施や報道機関を対象とした現地合同取材を開催してきました。また、河川の増水等が発生した際に迅速な対応や関係機関の連携が図られるよう、市・県等関係機関と合同で情報伝達訓練・避難訓練を実施しました。

<table>
<thead>
<tr>
<th>県</th>
<th>提供事項</th>
<th>平成20年度</th>
<th>平成21年度</th>
<th>構考</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>岩手県</td>
<td>工事説明会</td>
<td>8月 7月 3月</td>
<td>8月 7月 4月</td>
<td>住民への災害復旧説明会等（5回）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>カメラ画像情報提供</td>
<td>8月 7月</td>
<td>8月 7月</td>
<td>6/22から一関市へ提供</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>情報伝達訓練等</td>
<td></td>
<td></td>
<td>情報伝達訓練（1回）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>現地合同取材（報道機関）</td>
<td>* * * * * *</td>
<td>* * * * * *</td>
<td>報道機関への現地合同取材（6回）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>記者会見</td>
<td>* * * * * *</td>
<td></td>
<td>現地調査結果についての記者会見（1回）</td>
</tr>
<tr>
<td>宮城県</td>
<td>工事説明会（花山・栗駒）</td>
<td>8月 7月 3月</td>
<td>8月 7月 4月</td>
<td>住民への災害復旧説明会等（9回）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>カメラ画像情報提供</td>
<td></td>
<td></td>
<td>6/22から栗原市へ提供</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>栗原市への説明</td>
<td></td>
<td>* * * * * *</td>
<td>避難場所調査結果等を栗原市へ説明（5回）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>情報伝達訓練等</td>
<td>* * * * * *</td>
<td>* * * * * *</td>
<td>情報伝達訓練（3回）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>現地合同取材（報道機関）</td>
<td>* * * * * *</td>
<td>* * * * * *</td>
<td>報道機関への現地合同取材（3回）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>記者会見</td>
<td>* * * * * *</td>
<td>* * * * * *</td>
<td>対策工法や現地調査結果等についての記者会見（13回）</td>
</tr>
</tbody>
</table>

記者会見状況
情報伝達訓練状況
情報伝達訓練と合わせ実施の避難訓練
栗原市への説明
現地合同取材
別紙3
粟駒山系特定緊急砂防事業

●特定緊急砂防事業について
岩手・宮城内陸地震により荒廃した粟駒山系において、応急対策に引き続き一定計画に基づき実施する河道閉塞（天然ダム）箇所に対応等の高度な技術力が必要となる工事を、短期・集中的に砂防設備等の整備を国直轄で実施し下流域を土砂災害から保全するため、新規事業着手します。

●対策を実施する河道閉塞（天然ダム）について
岩手県側：3箇所（市野々原、桜木平、産女川）
宮城県側：6箇所（小川原、湯沢、湯ノ倉、湯浜、沼倉、沼倉裏沢）

【直轄特定緊急砂防事業のイメージ図】
市民防災フォーラム
〜岩手・宮城内陸地震から1年〜

大規模災害による被災を軽減するために、市民・地域社会・マスコミ・行政それぞれが何をすべきなのか、何ができるのか。
地震発生からちょうど1年を契機に、当時の状況を振り返りつつ、みなさんに考えてみませんか？

2009年6月14日

入場無料

時間 13:30〜16:30
場所 一関文化センター 大ホール

岩手・宮城内陸地震 記録映像上映

基調講演
「岩手・宮城内陸地震から何を学ぶか」

パネルディスカッション
「岩手・宮城内陸地震を振り返る～自助・共助・公助のあり方について～」

コーディネーター
岩手大学防災研究所

パネリスト
岩手大学防災研究所
佐藤 健男 岩手大学防災研究所
箱石 勝彦 一関市消防本部
箱崎 隆太 一関市消防本部

主催 一関市、岩手県、国土交通省岩手河川国道事務所